

富山小学校だより



No. 8

1学期を終えて

早いもので、来週の水曜日が1学期の終業式です。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご支援をいただき、お陰様で、子ども達は元気に様々な活動に取り組むことができました。入学式、種もみまき（3,4年生）、修学旅行（6年生）、交通安全教室、要害山登山、市小学校連合運動会（3年生～6年生）、田植え、校内マラソン大会、江津体験学習（5年生）、PTA草刈り作業、PTA救急法講習会、授業公開等、1学期だけでもこのようにいろいろな活動がありました。そして、明日と明後日はPTAキャンプです。たくさんの方々のご支援があつてこそと感謝をしております。



1学期、全校の子ども達は様々な面で成長しています。特に本年度は、5月14日（土）の市小学校連合運動会で、「全学年男子リレー」と「全学年女子リレー」で、男女とも第1位というすばらしい成績であったことが、子ども達の大きな自信へとつながりました。

さて、これから子ども達は長い夏休みに入ります。子ども達は、ご家庭や地域の方々と過ごす時間が多くなります。安全で楽しく充実した夏休みになりますよう、ご指導の程よろしくお願いいたします。2学期の始業式は、8月30日（火）ですが、この日、さらに一段と心も体も成長した子ども達に会えるのを楽しみにしています。

二つと一つ

「二つと一つ」というのは、7月6日（水）の全校朝会での話の題です。「顔で二つあるものは何でしょう？」「一つあるものは何でしょう？」と、子ども達への質問から始めました。この質問についての答えは簡単ですが、「**どうして目や耳は二つあって、口は一つしかないのでしょうか？**」という質問に対する答えは難しいと思います。当たり前だと思って、このようなことはあまり考えないと思います。私もこれまで考えたことはありませんでしたが、私が読んでいる本にこのことについて書いてあったので、いくつか考えてみました。



専門的なことはわかりませんが、目や耳は、左右、前後、様々な方向のものを見たり、様々な方向の音を聞いたりするために、二つあるのだと思います。目については、二つの目によって距離感をつかむという理由もあるかと思います。そして、生き物が外敵から自分の身を守るために、一つではなく二つの目や耳が必要なのだと思います。子ども達へは目や耳が二つあることの理由を次のように話しました。

【全校朝会での話・・・目、耳について】

目が二つあるのは、一つではなく二つの目で、いろいろな美しいもの、正しいもの、すばらしいものを、しっかりと見ようということだと思います。

耳もそうです。先生のお話や友達の話、お家の人達のお話、いろいろな話を、二つの耳でしっかりと聞こうということだと思います。



では、なぜ、口は二つないのか、口は一つしかないのかについてですが、考えてみるとその理由はよくわかりません。他のほとんどの生き物を見ても口は一つですので、何か生物学的にその理由はあるかもしれません。

ところで、口は、飲食する時だけでなく、話す時にも使います。一つしかない口ですから、その一つの口を大切に使って話すことが大切なのではないかと思います。子ども達へは次のように話しました。

【全校朝会での話・・・口について】

目や耳のように、右や左、いろいろな所を見たり、いろいろな方向の音を聞いたりするように、口が右に向かって言うことと左に向かって言うことが、いろいろと違ってはいけないと思います。

一つしかない口ですから、自分の考えたことや、思ったこと、伝えたいことを、正しく、はっきりと、わかりやすく話してほしいです。これが口を大切に使うことだと思います。



全校朝会で、「二つと一つ」という話をするにあたり、私自身も、見ること・聞くこと・話すことについて、いろいろと考えてみました。当たり前前のことでも、その中には深い意味があるのだなと思いました。

口についての話から、私は「**口は禍のもと**」という言葉思い出しました。この言葉は、元々は「**口は禍の門**」ということわざからきているようです。口は大切に使わないと、人を傷つけたり、自分が誤解をされたりすることがあると思います。子ども達へ指導するだけでなく、自分自身も気をつけなくては思いました。

このことわざについて、次の本に書いてあったことを紹介します。



「名言・ことわざ日めくりカレンダー」師尾喜代子編、TOSS ブルーライト著 明治図書 より

一度口から出てしまった言葉は取り返しがつきません。そんなつもりで言ったのではないと説明して分かってもらえないのですが、そんなことばかりではありません。

このことわざは、話すことの内容の大切さを教えてくれています。

正しいと思うことも、相手の立場に立って「言っているのか」を考える必要があります。相手の気持ちを考えて話せるといいですね。

今日のメッセー

口は禍の門

左記の他に、このことわざの類句として次のようなものも記載しており、面白いなと思いました。

「**口は虎、舌は剣**」

(場合によっては、口は虎のように凶暴になり、舌は剣のように鋭くなるということから、言葉は使い方によって自分も人も傷つける。)

「**舌は禍の根**」

(言葉は禍を招くもとである。)

「**病は口より入り、禍は口より出づ**」

(病気のもととは食事などで口から入り、不幸な出来事は口から出た失言から起ることが多い。)

「**禍は口から**」

(禍は自分の口から生まれる。)

